

日本感情心理学会会員の皆様へのお詫びとご報告

去る 2025 年 10 月 25 日から 26 日にかけて行われましたライトキューブ宇都宮での大会には、200 名を超える方にご参加をいただきました。各プログラムでは、活発な議論が行われ、感情研究が進展していく様子をリアルタイムで見ながら、大変うれしく思っております。来年度は 4 月 24 日から 26 日に大平英樹先生を大会実行委員会委員長として、日本生理心理学会と合同で名古屋大学において開催いたします。各種締め切りの発表はこれからですが、ご発表とご宿泊のご準備をお願いいたします。

さて、会員の皆様へのお詫びがございます。日本感情心理学会細則第 4 条 3 にあるように、総会時に理事選挙結果を選挙管理委員長の小川時洋先生よりご報告いただく必要がございました。当日まで小川先生からご連絡いただき、当日もご出席をいたしましたが、執行部側が失念しており、ご報告をお願いすることができませんでした。小川先生には、重ねてお詫びを申し上げるとともに、会員にも皆さんにも細則に従って総会でご報告ができなかったことを、深くお詫びいたします。

小川先生からは、以下のご報告とご意見を承っております。

2024 年 9 月 2 日付で、学会事務局から正会員に向けて選挙台帳（被選挙人名簿）を含む説明文書（「理事および監事の選挙について」と投票用紙を送付しました。投票締め切りは 2024 年 9 月 30 日でした。送付後、投票率向上のために投票を促すメールを正会員宛に 2 回送信しました。

開票作業は 2024 年 10 月 2 日に事務局である国際文献社の会議室において、選挙管理委員メンバー 3 名（1 名は事情により欠席）と事務局担当者立ち合いのもとで行いました。390 名の有権者のうち、80 名の会員（20%）からの投票が期日までに到着、10 月 1 日以降に 7 通が届きました。この延着分につきましては、選挙管理委員会で相談の結果、より多くの会員の意思を選挙に反映させるために全て有効票として扱うこととし、投票率は最終的に 22%となりました。

得票数上位 18 名に対し就任依頼のメールを送り、17 名の当選者から就任受諾の回答を得たために確定したほか、不足分の 1 名については抽選順位にしたがって 1 名の当選者に就任を依頼したところ、承諾を得ることができたため 18 名が確定しました。

また、監事 2 名の選出についても得票数に基づいて就任依頼を行い、確定しました。なお、選出された方々のお名前は紙幅の都合上省略させて頂きます。

本年4月に学会事務局が国際文献社からJ-PASSに移転しました。そのため次回選挙の実施方法については、今後、新事務局と確認・調整することになると予想されます。

あわせて、予算措置や現状郵便投票と定めている細則の修正なども必要になるかもしれません。理事会および会員の皆様にも、お心に留めておいていただけますと幸いです。

円滑な選挙実施にご協力頂いた会員の皆様には、深く御礼申し上げます。

以上

執行部としては、次期理事会に引継ぎを入念に行い再発予防に努めるとともに、次回の総会で本件についてご説明をさせていただきます。ご意見などございましたら、お知らせいただければ幸いです。

第33回大会では、ECR (Early Career Researcher) 会の活動も発足するなど、おかげさまで学会活動も活性化しつつあります。日々新しい展開を見せる感情研究を発信し議論する場として、本学会の役割は重要だと思います。今後もお力添えをいただければ幸いです。

日本感情心理学会 理事長

有光興記